

新潟大学 人を対象とする研究等倫理審査委員会 オプトアウト書式

①研究課題名	人工股関節全置換術脚延長量と股関節回旋角の関連
②対象者及び対象期間、過去の研究課題名と研究責任者	
【対象】 2012年から2021年の間に新潟大学医歯学総合病院で行われた片側人工股関節全置換術例（150例） 【研究期間】 新潟大学医学部倫理審査委員会承認後から2026年3月31日まで 【過去の研究課題名】なし	
③概要	
人工股関節全置換術（THA）は寛骨臼と大腿骨のインプラントからなり、これらがぶつかりと脱臼の危険性が生じるため、その設置角度が重要です。近年骨に対しての設置角度だけでなく、肢位や体位の変化に伴った寛骨臼と大腿骨インプラントの相対的な位置関係の変化も重要と考えられている。THA 後の股関節回旋角の変化が脱臼の要因になる可能性が考えられますが、THA 後に股関節の回旋（骨盤に対する大腿骨の回旋）に関しては不明です。 本研究の目的は人工股関節全置換術後の股関節の回旋の変化とそれに関わる因子を同定することです。	
④申請番号	2024-0252
⑤研究の目的・意義	人工股関節全置換術 (THA) は寛骨臼と大腿骨のインプラントからなり、これらがぶつかりと脱臼の危険性が生じるため、その設置角度が重要です。近年骨に対しての設置角度だけでなく、肢位や体位の変化に伴った寛骨臼と大腿骨インプラントの相対的な位置関係の変化も重要と考えられている。THA 後の股関節回旋角の変化が脱臼の要因になる可能性が考えられますが、THA 後に股関節の回旋 (骨盤に対する大腿骨の回旋) に関しては不明です。本研究の目的は人工股関節全置換術後の股関節の回旋の変化とそれに関わる因子を同定することです。THA 後の股関節角の変化や回旋に関与する要因を把握することで、THA 後の脱臼予防のための設置角度を提案することが可能になると考えられます。
⑥研究期間	新潟大学医学部倫理審査委員会承認後から2026年3月31日まで
⑦情報の利用目的及び利用方法（他の機関へ提供される場合はその方法を含む。）	本研究対象は、手術前後に撮影した CT 画像を用いるため、対象者に不利益が生じることはないと考えられます。利用は当院のみで行います。使用するデータは個人が特定されないように匿名化を行い、研究に使用します。研究の成果は、学会や専門誌などの発表に使用される場合がありますが、名前など個人が

	特定できるような情報が公表されることはありません。
⑧利用または提供する情報の項目	2012年から2021年の間に新潟大学医歯学総合病院で施行されたTHA患者150例
⑨利用の範囲	新潟大学大学院医歯学総合研究科 健康寿命延伸・運動器疾患医学講座および整形外科
⑩試料・情報の管理について責任を有する者	新潟大学大学院医歯学総合研究科 健康寿命延伸・運動器疾患医学講座 今井 教雄
⑪お問い合わせ先	新潟大学大学院医歯学総合研究科 健康寿命延伸・運動器疾患医学講座 今井 教雄 025-227-2272 imainorio2001@med.niigata-u.ac.jp